

論文番号 135

担当

滋賀医科大学 福祉保健医学講座

題名(原題/訳)

The Effect of Acute Ingestion of a Large Dose of Alcohol on the Hemostatic System and Its Circadian Variation

大量急速飲酒の血液動態への影響とその日内変動

執筆者

Numminen H, Syrjala M, Benthin G, Kaste M, Hillbom M

掲載誌(番号又は発行年月日)

Stroke 31(6): 1269-73

キーワード

alcohol, circadian rhythm, hemostasis, prostaglandins, thrombolysis

要旨

(背景と目的) 立て続けの大量飲酒は血栓性脳卒中と急性心筋梗塞の発生の引き金になるかもしれない。しかし、それについてのメカニズムは明らかでない。立て続けの飲酒の血液動態への影響とその日内変動はまだ調査されていない。我々は 1.5g/kg の大量急速飲酒の効果を調べた。

(方法) 12人の健康で喫煙しない男性が参加し、果物ジュースにエタノールを入れたものもしくは果物ジュースのみを差し出され、仰臥位で12-24時間観察された。処置はランダムに、各期間は一週間の洗い流し期間をおいた。血液動態を調べるために血液と尿が集められた。

(結果) 血小板トロンボキサン A(2)の代謝物の 2,3-dinor-トロンボキサン B(2)の尿中排泄量はコントロール期の夜よりも、アルコールを飲んだ夜のほうが統計的に有意に( $P<0.05$ )大きかった。朝に飲酒した後の日中には少しの増加が観察された。表皮細胞プロスタサイクリンの代謝物の 2,3-dinor-6-ketoprostaglandin F(1 $\alpha$ )の排泄への効果は僅かであった。プラスミノゲンアクチベーターインヒビター1の活性は飲酒した朝( $P<0.05$ )、夕( $P<0.01$ )ともに7倍の増加が観察された。

(結論) これは比較的大量だが許される量の急速飲酒が経時的にトロンボキサンを介する血小板活性を高めることを示唆した最初の研究である。また、本研究では飲酒習慣の無い者の血液動態の正常な日内周期性が飲酒により変化することが示された。